



医療センターだより

よしぶえ

NEWS LETTER

No.24



2019年1月発行

基本理念

多くの人々との出会いを通じて、新しい医療環境の創造に努めます。

5つの基本方針

- 1 地域の視点に立った信頼される医療を目指します。
- 2 安全性が保障された質の高い医療を追究します。
- 3 地域の医療機関や福祉・介護施設との連携を進めます。
- 4 活力に溢れ、誇りを生み出す組織風土を醸成します。
- 5 公営企業として、経営の健全化に努めます。



〔掲載項目〕

- | | |
|---------------|---------------------|
| ① 表紙《院内避難訓練》 | ④ 災害に備えた当院の取り組みについて |
| ② 麻しん・風しんについて | ⑤ DMATについて |
| ③ 院内外イベント特集 | ⑥ 患者総合支援課通信 |

特集

麻しん・風しんについて

感染管理認定看護師 林沼 聖子



麻しんの現状と症状

麻しんは、現在は海外からの輸入例のみとなっています。感染は主に3つの経路（空気・飛まつ・接触感染）で人から人へ広がりますが、麻しんはこの全ての感染経路での感染が認められます。極めて感染力が強く、感染者と同じ空間にいただけで免疫のない人は100%感染すると言われています。症状は、鼻水やせき、結膜の充血、発熱等です。一旦解熱した後、発しんが出ると共に再度発熱し、通常1週間～10日間で回復します。しかし、合併症が発症者全体の30%というかなり高い頻度で現れます。その約半数が肺炎で、頻度は低いものの脳炎の合併例もあり軽視はできない感染症です。



麻しんの発しん
(国立感染症研究所より)

風しんの現状と症状

風しんは現在、関東地方を中心として患者報告が増えており、その他の地域でも感染拡大が懸念されています。風しんウイルスは飛まつ感染で広がってきます。リンパ節の腫脹が初期症状となり、軽度の発熱と発しんが出現しますが、不顕性感染（感染症状が出現しない）も多いようです。通常1週間程度で回復しますが、妊娠中（およそ20週頃まで）に風しんに感染すると、先天性風しん症候群（白内障・緑内障・奇形・難聴等の症状）の子どもが生まれてくる可能性が高くなり、問題となっています。



風しんウイルス
(国立感染症研究所より)

予防策



空気感染：空気中の病原体を吸いこみ感染

飛まつ感染：せき・くしゃみを吸いこみ感染

接触感染：手などを介して感染

予防は麻しん・風しんともに免疫をつけておくことに尽きます。両者ともワクチン接種が大きな予防になります。かかったことが確実である人も免疫があると考えられます。しかし、風しんに感染したと記憶がある人達に抗体（免疫）検査をしたところ約半数の人は実際には免疫がありませんでした。したがって感染したと記憶している人であっても、抗体検査での確認が推奨されています。それ以外の方（罹患歴がない、またはあいまい、ワクチンを全く接種していない）も、同様に抗体検査（採血）、もしくはワクチン接種が必要です。今後妊娠する可能性がある方やそのパートナーまたは家族は、妊娠前に免疫をつけておくことがこれから生まれてくる家族を守る唯一の方策になります。

NEWS

当医療センターで開催した行事・イベントや今後の予定をご紹介します。

救命・救急市民公開講座を開催しました。

10月13日（土）、救急診療科主催の「第2回救命・救急市民公開講座」を開催しました。『いのち』を救う、そのために私たちができることとして、心肺蘇生法や応急手当などの救命処置を、講義や実技指導を通して学びました。当日は東近江行政組合消防本部からも救急救命士の方が来られ、当院の職員と共にAEDの使い方や応急処置のレクチャー等を行っていただきました。



講座終了後、受講生から「AEDの使い方を確認することができ、良かった。」「応急手当の大切さが良く分かった。」のお声をいただきました。年末年始は救急車の出動件数が一年の中で最も多くなる時期です。理由としては ①冬季感染症の流行、②忘年会・新年会等での急性アルコール中毒、③もちなどを喉につまらせた際の窒息 が挙げられます。万が一、そのような場面に遭遇しても冷静にそして正確で素早い応急処置が重要です。

臓器提供・移植の普及・啓発街頭キャンペーンを行いました。

10月21日（日）、イオン近江八幡にて、当院の医師、看護師が臓器提供・移植の普及啓発のため、街頭キャンペーンを行い、市民の皆さまに臓器提供に関するパンフレットやポケットティッシュ、エコバックを1,000部配布しました。

当院では「臓器提供をする権利、臓器提供をしない権利、臓器移植を受ける権利、臓器移植を受けない権利」の4つの権利を尊重し、昨年より当院に入院する全患者さんに対して臓器提供の意思表示を確認しております。

皆さまも、もしもの時どうすればよいのか、周りの大切な方と一緒に考えてみませんか。



こんにちは 赤ちゃん

当院で生まれた赤ちゃんを紹介します！

ママからひとこと

うまれてきてくれて
ありがとう♡



ゆ な
ユ ナちゃん

(2018年10月23日生まれ/2752g)



ゆ な
侑 奈ちゃん

(2018年10月23日生まれ/2372g)

ママからひとこと

私たちのもとに産まれて
きてくれてありがとう。
元気にすくすく
大きくなってね。

災害に備えた当院の取り組みについて

平成30年度は大阪北部地震や北海道胆振（いぶり）東部地震、また非常に勢力の強い台風が発生し、全国各地に甚大な被害をもたらしました。被害を受けられた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。当院においてもあらゆる災害を想定して避難訓練等を実施しており、患者さんや市民の皆さまに安心して過ごせる病院づくりを目指しています。本特集では今年度に行われた当院の取り組みをお伝えします。

2病棟にて避難訓練を実施

9月28日（金）、4階北病棟において「消火・避難訓練」を実施しました。職員約60名が参加した本訓練では、初期消火活動と入院患者さんの避難誘導の確認を目的とし、「4階北病棟で火災が発生した」という想定で行われました。



訓練では主に、屋内消火栓を利用した消火活動、布担架を用いた患者搬送、イーバックチェア（階段避難車：自力歩行が困難な患者さんが避難の際に用いる車椅子）を活用した非常階段での避難、逃げ遅れた方に対する消防はしご車を用いた救出を行いました。訓練では近江八幡消防署にもご協力いただき、当院と消防署の連携を確認しました。



また、10月14日（日）、5階病棟において「透析室 災害時避難訓練」を実施しました。大規模災害による地震・火災の想定で、職員22名、維持透析患者さん23名が参加しました。

地震発生直後には、患者さんへの対応・透析機械の対応・情報収集・連絡を行い、次に、初期消火・緊急離脱（血液透析を中断し針を抜くまでの過程）・避難誘導を行いました。火災による避難は5階から1階まで歩いて避難しなければならないため、患者さんの歩行能力や病状に応じて担当看護師が避難誘導を行いました。



（株）ケーエスケーさまと災害時医薬品等の調達に関する協定を締結

8月21日（火）、市役所市長応接室にて（株）ケーエスケーさまと災害時医薬品等の調達に関する協定書の締結式を行いました。

この協定は、地震や水害などの災害時に、近江八幡市からの要請に応じて市内に支店を構える（株）ケーエスケーさまから医薬品等を優先的に市内避難所や救護所、災害拠点病院である当院に搬送していただくものです。市と卸売業者が直接医薬品等を調達できる仕組みを新たに設けることにより、災害発生後に迅速な医薬品等の確保が可能となりました。



災害派遣医療チーム (DMAT) の活動について

DMATとは、災害発生の急性期に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームのことを言います。被災地での活動は災害現場での医療活動だけでなく、被災地内の病院支援や患者搬送、避難所の医療支援など被災地内での医療ニーズすべてに対応できなければいけません。当院は、平成17年(2005年)にDMAT登録を行ない、現在は20名を超える隊員が在籍しています。



平時はそれぞれ通常の業務に就きながら院外で開催される災害訓練や研修に参加しています。滋賀県からの出動要請があれば、即座に被災地での活動に必要な医療資器材を準備し、専用車両で被災地に赴けるよう、日々準備を行なっています。

災害は、私たちが住むこの地域にもいつ起こるかわかりません。私たちDMATは被災地を支援するだけでなく、院内スタッフに対して、災害医療研修や災害訓練を企画・運営しています。万が一、この地域が被災した際にも継続して医療サービスが提供できる病院を目指して日々活動しています。

北海道胆振 (いぶり) 東部地震に DMAT 隊員 を派遣しました！

9月6日(木)、北海道胆振地方を震源とした最大震度7の地震が発生しました。被害を受けられた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

滋賀県からのDMAT隊員派遣要請に基づき、当院からは看護師の大橋英二(4階北病棟所属)が9月7日(金)～9月12日(水)の6日間、被災地の活動拠点本部で支援活動を行いました。



患者総合支援課通信

がん撲滅をめざすリレー・フォーライフ・ジャパン2018 滋賀医科大学 ～このチャリティーイベントに、近江八幡市立総合医療センターは、今年も参加しました～

- と き：10月13日(土)12時 ～10月14日(日)12時
- と ころ：滋賀医科大学中庭（滋賀県大津市瀬田月輪町）
- 内 容：24時間リレーウォーク・キャンドルセレモニー・募金活動・がん啓発講演
ステージイベントなど

リレー・フォー・ライフとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティーイベントです。

がん患者さんやそのご家族、そして支援者が、がん征圧の願いを込めて、24時間夜通しタスキをつなぎながら交代で歩き続け、痛みを分かち合い、勇気と希望を与え合います。今年もこのリレーウォークに参加させて頂きました。



チーム・ブースでは「じもてい3がん病院」として出展し、東近江総合医療センター・滋賀医科大学医学部附属病院と当院が協力し、がん診療に関する取り組み等の紹介や、がん相談を行いました。

来年も開催される予定です。がん患者さんへの支援の輪が広がり、がん医療をさらに充実させるために、是非皆さまも一度ご参加下さい。

近江八幡市立総合医療センター

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地
TEL 0748-33-3151 FAX 0748-33-4877

***病院へのご意見・ご質問をお寄せください。**

発行：広報委員会

当センターで医療を受けられる方の権利

1. 人権が尊重され、良質で適切かつ安全な医療を、平等・公正に受けることができます。
2. 自分の受ける医療について説明を受け、検査や治療方法などを自分で選ぶことができます。
3. 診断や治療について、他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 診療情報の提供、又は診療記録の開示を求めることができます。
5. 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。